

1.1 – NMB銀行本社, (アムステルダム)



Address:

Bijlmerplein 888

1102 MG Amsterdam - Holland

Task:

オフィス、会議室、レストラン、駐車場およびサービスエリア

Architects:

トン・アルバーツ and Max van Huut

Year of construction:

1983-1987

1978年、Nederlandsche Middenstandsbank (NMB、現Internationale Nederlanden Groep (ING))は、新しいイメージの新社屋の建設を模索していた。そこで、取締役会は独自の基準を立案し、芸術、天然素材、太陽光、植物、省エネ、低騒音レベル、水などが一体となったオーガニックビルを依頼した。

完成した建物群は、不規則なS字型の曲線状に配置され、その中に複数の庭園と中庭がある。周囲は、高密度住宅地、オフィス、小売商業施設に囲まれている。2400名の従業員は、10棟の斜塔に分かれて勤務している。

採光のコンセプト

「建物の外部にある上から3番目の各窓から入ってくる日光は、内部の羽根板からオフィススペースの天井へと反射する。この採光技術と窓を一行に設置した塔内のアトリウムとの組み合わせにより、ビル内の大部分の照明を賄うことができ、残りは作業照明と装飾用壁燭台、そして数は少ないが天井の照明設備で補っている」

熱設計

「NMBは、1980年代初頭に省エネ技術を導入した。この技術は、近年向上した」。古くなっているが、エネルギー効率の高い設計をするための追加費用を3ヶ月ほどで捻出できた。建物は、高効率窓が開発される前に建設されたものだが、二重ガラスが使用されている。「プレキャストコンクリート構造で覆われているため断熱性があり、さらにその外側は煉瓦で固められている。この構造では、シンプルパッシブソーラーシステム、照明、電力設備、従業員の体温などから得られた熱を保つことができる」

油圧ラジエータは、施設内の熱電併給設備により加熱されている100立方メートル温水貯蔵システムと接続されている。「エレベーターモーターやコンピュータ室からも熱を回収できる。空気熱交換器により、熱をビル内の排気から吸気へと変換する」。実際、NMB本社ビルには、空調設備が導入されなかった。

「建物の構造上の熱貯蔵能力により、夏期の熱を遮ることができる。また、機械的換気装置、開閉可能な窓からの自然換気、熱電併給設備からの廃熱を電源として利用したバックアップ吸収冷却装置によりオフィスの温度を下げることができる」

芸術作品と内装

「通路は、芸術作品で埋め尽くされている。「アトリウムと中二階の上部には着色金属板の断片が貼り付けられており、周囲の壁は様々な色の光に包まれる。主要な廊下の伸縮可能な接合部を覆う真鍮板は壁の凹みに取り付けられており、その周囲は扇状のカラフルな大理石やコーブ照明で囲まれている」。

内装については、プレキャストコンクリートをテクスチャーペイントで塗装したり、木製装飾品を飾ったり、天井に木製の薄い羽根板を付けたりと天然素材を使って質素に仕上げられている。屋根、中庭、アトリウム(その他内部スペース)などは、景観に合うように様々なスタイルで造られている」

水

「貯水槽には、噴水や造園に使うために雨水が蓄えられている。水を流し、律動させて形成される、いわゆる「流体彫刻」を至る所で見ることができる(珍しいところでは、傾斜路の手すりなど)。ただし、視覚的な効果だけを狙って水の特性を利用しているわけではなく、湿度を上げること、静寂な廊下に心地よいレベルの白音を流すことなどもその目的である」

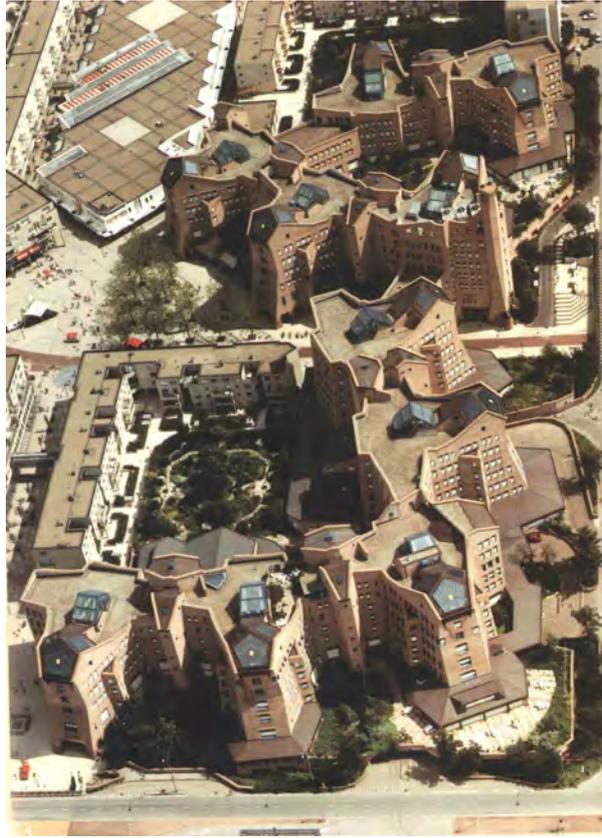
NMBからINGへ

NMB銀行は、現在ING Group (銀行、投資、生保サービスなどを提供するオランダの金融機関)の傘下企業となっている。

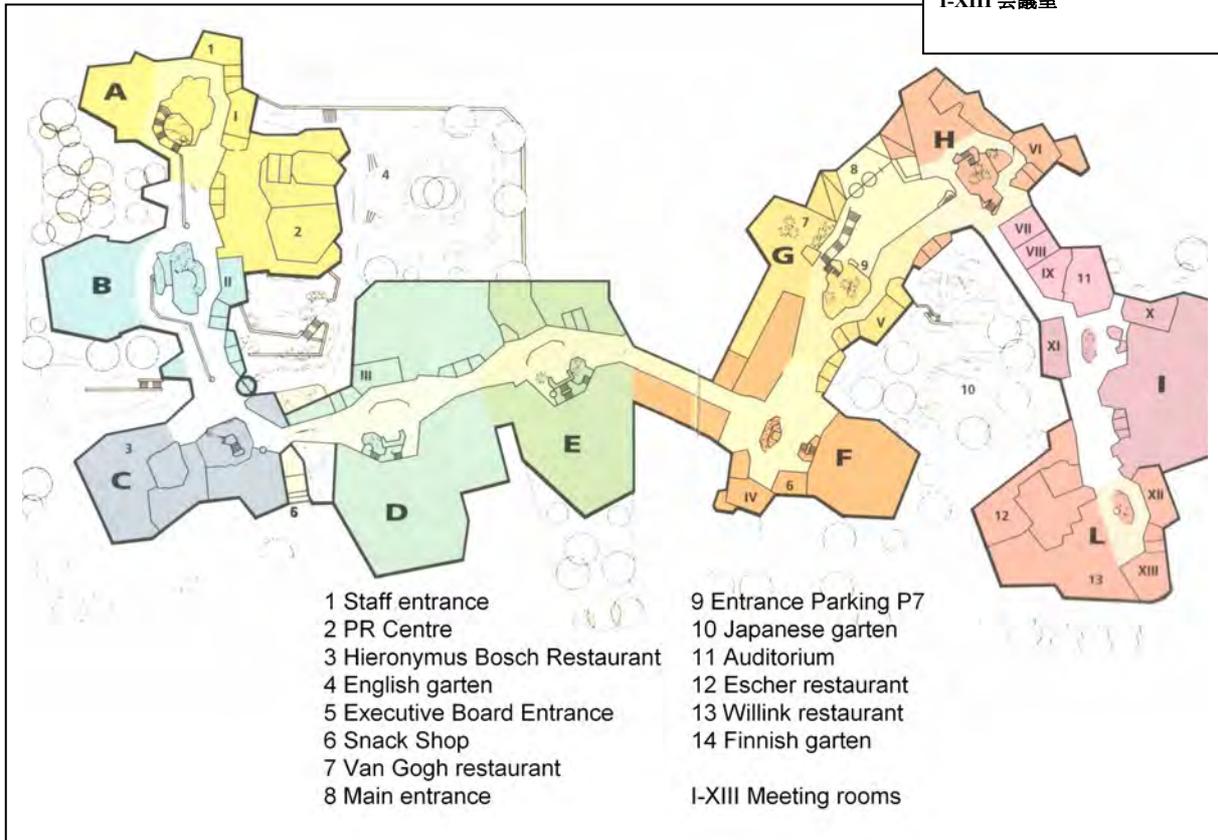


More: www.albertsenvanhuut.nl, pdf: D92-21_NMBBankHQ.pdf

1.1 – NMB Bank Headquarters, Amsterdam



- 1 関係者出入口
- 2 PR センター
- 3 ヒエロニムス・ボスレストラン
- 4 英国風庭園
- 5 役員出入口
- 6 スナックショップ
- 7 ゴッホレストラン
- 8 正面出入口
- 9 駐車場 P7
- 10 日本風庭園
- 11 講堂
- 12 エッシャーレストラン
- 13 ウィリンクレストラン
- 14 フィンランド風庭園
- I-XIII 会議室



1.2 – INGハウス (アムステルダム)



Address:

Amstelveenseweg 500

1081 KL Amsterdam - Holland

Task:

オフィス、講堂、会議室、レストラン

Architect:

メイヤー& ヴァンスホーテン建築事務所

Year of construction:

1999-2002

ING Group 本社

「ING ハウスとは ING Group の本社社屋で、役員室、上級管理職用執務室に加えて様々な部署が設置されている。

建物は、刷新・透明・積極性・継続という ING のイメージを反映して設計されている。開放感のある間取りになっており、壁はガラス製であるため、部署間のコミュニケーションを円滑にし、透明性を重視していることを強調している。

陽極酸化アルミとガラスで流線型を形成し、スチール製の脚が 16 本あるテーブルのような形で建設されている。脚は、地中の巨大なコンクリートブロックの中にあるピンの上に何の留め具もなく立っている。この技術は、橋梁を建設するときに用いられる。

建物の幅は 28m で、全長 138m。最高部は 10 階建てになっており、高さは 48m。総面積は 5600 平米。ING ハウスには、ロビー、250 席の講堂、休憩室、レストラン、図書室、800 平米を超える会議室、160 台分の駐車場などがある」*

建物内部

「建物内部は、見ごたえのある美術品の宝庫という様相を呈している。オフィススペースの約半分は、従業員が仕事場の作業環境を変えられるように「柔軟性」のある設計が施されている。6 つの中庭があり、大半の従業員が、そのうち一つを眺められるようになっている。

これらの中庭は、造園建築家 Michael van Gessel がそれぞれに独自のテーマを持たせて設計した。建物の設計と一体感があり、最も視覚に訴える部分と言える。ロビーに目を移すとコケに覆われた一角に竹の庭園があり、ベルギー産のブルーライムストーンの花崗岩が敷き詰められている。正面出入口からホールを抜けて、そこから 50 メートルほど続くニュー・メアア池の岸の終端までの間には中国産御影石でロビーの中心を通る小路が造られている」*

データ:

10階建て

従業員500名

総床面積20000平米(駐車場を除く)

160台分の駐車場

オフィス床面積7500平米

会議室800平米

講堂500平米

ラウンジ500平米

レストラン(厨房を含む)1100平米



*http://www.ing.com/group/showdoc.jsp?docid=271855_EN&menopt=abo|vir



http://www.ing.com/xpedio/images/mult/273704_en.jpg

More: http://www.ing.com/group/showdoc.jsp?docid=271855_EN&menopt=abo|vir

1.3 -会議場(バーゼル) (アムステルダム)



Address:

Vijzelstraat 32
1017 HL Amsterdam - Holland
会議場

Task:

Architect:

Karel de Bazel (1869-1923)

Year of construction:

1919-1926

沿革

建築家 Karel de Bazel (1869-1923) にちなんでバーゼルという呼び名で親しまれている 'Nederlandsche Handelsmaatschappij' (オランダ貿易会社) の建物は、1919 年から 1926 年までの期間をかけて建設された。植民地支配時代の豊かな歴史、アールデコ建築様式、Bazel が伝えたかった神智学的メッセージが認められ、1991 年にオランダ政府により正式に国定史跡に指定された。1824 年(19 世紀)、オランダ国王ウィレム 1 世はオランダ東インド会社 (Verenigde Oost-Indische Compagnie' (VOC)) を設立して、低落するオランダ経済を刺激する必要がある。オランダ貿易会社は、植民地商品の貿易に最も積極的に取り組んでいたため、名高い VOC の後継者と認識されている。

オランダ貿易会社

19 世紀初頭、オランダ経済は急激に落ち込んでいった。ウィレム 1 世は、オランダ貿易会社を設立することにより経済を復興し、オランダをもう一度世界の大国の地位に復活させようと努力した。19 世紀を通して植民地商品貿易は、次第にその重要性を失っていき、オランダ貿易会社の役割も最終的には、銀行へと変質していった。

建築家

バーゼルは、建築家 K. de Bazel が設計したもので、その最も重要な作品と位置付けられている。1919 年から 1926 年までの期間に工事が行われたが、Bazel 本人は完成 3 年前の 1923 年に永眠した。19 世紀末期は、多くの建築家が自分の構想を現実化しようと新しいアイデアを模索しており、Bazel もその一人だった。

Bazel の設計理念は、流行に阿らない「永遠」、「不朽」というものだった。神智学的かつ秘儀的な発想に強い影響を受け、人間が認識するレベルでは、これらの発想の背後にあるより高度な知識を理解することは不可能だと考えるようになった。芸術、神話、象徴を神聖なメッセージを伝える鏡として使った。バーゼルは、より高度な目標やメッセージを反映した芸術様式を体現した建物であると考えられている。バーゼルの中に射し込む光は、Bazel のアイデアを表現するために重要な役割を果たす。つまり、神(光)または自分自身との一体化が、人生において最重要目標だった。

神智学的発想によると、建物は普遍的調和を表現するものであるため、その意味において建築家の仕事は神聖なものであると言える。建物を通じてより高度なメッセージを表現するために、数学的原理も駆使した。オランダ貿易会社を設計する上で、Bazel は 3.60cm x 3.20m の長方形を基に建物の輪郭を形成し、一方で外観の基準としては 90cm を採用するという厳格な規格を適用した。

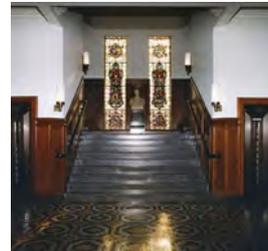
内装

「Bazel は、建物の内装と外装は互いに調和していなければならない、という信念を持っていた。バーゼルについても外装だけでなく、内装(木製の床、天井、タペストリー、照明など)も綿密に設計した。さらには、カレンダー、傘立て、事務用品などのようなものまで設計した。同時代のその他の建築家と同様に Bazel も、文明は職場や日常生活環境における美と調和から生まれると信じていた」

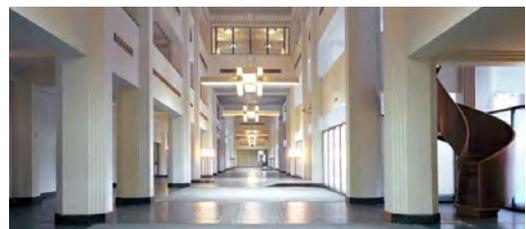
Café De Bazel があるバーゼルのメインホールの内装については、黒と緑のベネチアンガラススタイルの床、ガラスの屋根を支える白い支柱など、建築家 Claus en Kaan が設計した。



正面出入口の両側に、女性の彫像が一体ずつ彫られており、それぞれヨーロッパとアジアの 2 大陸を表わしている。これら 2 大陸は、オランダ貿易会社にとって非常に重要だった。



Antoon Derkinderen が設計したステンドグラスの窓により、階段に美しい光が射し込む。「特筆すべきは、失業、貧困など当時の社会問題をモチーフとしたオランダ貿易会社設立前のオランダの状況、さらにオランダ貿易会社の功績、そのオランダ社会への影響などを、ステンドグラスによって表現していることである」



メインホール

More: www.debazelamsterdam.nl